

第5回懇話会における基本構想中間案の記載に関する ご意見および対応

| No. | 頁 | 項目 | 発言内容 | 対応 |
|-----|-----|-----------------------|---|---|
| 1 | P10 | 3. 複合施設として目指す施設像の具体化① | 「東日本大震災の経験と教訓の伝承活動の担い手同士の連携と協働を支援するとともに、市民がこうした活動に出会う機会づくりや次世代を担う人材の育成に取り組みます。」が、どこに何か掛かっているのか分かりにくいので、文章を整理して欲しい。 | 表現を修正し、「東日本大震災の経験や教訓を伝承する活動について、担い手同士の連携と協働を支援するとともに、市民がこうした活動に出会う機会づくりや次世代を担う人材の育成に取り組みます。」とします。 |
| 2 | P10 | 3. 複合施設として目指す施設像の具体化② | 【施設全体】の項目の1つ目、2つ目の○が災害に寄り過ぎた内容となっていて、「過去に学び未来を創る、新たな都市文化の創造・発信の場」という施設像とつながらない。これまで仙台に蓄積された文化を発展させて新しい都市文化創造するといった書きぶりにならないか。 | 1つ目の○として、「仙台のこれまでの文化的な蓄積を振り返り、新たな創造・発信を促進するための取組みを行います。」を追記します。 |
| 3 | P11 | 3. 複合施設として目指す施設像の具体化② | 【音楽ホール】の2つ目の○で、例えば、「仙台の歴史や東日本大震災で経験した文化力をより有効に発揮するため」、それをさらに「切り口で捉えて、未来に向けて独自性のある」という言い方をすれば、よりポジティブになるのではないか。 | 「文化力をより有効に発揮」のご意見については、1つ目の○で、震災復興過程などにおける文化芸術のこれまでの蓄積を社会に活かすことについて記述していますので、「独自性のある創造発信」の前に「未来に向けた」を追記します。 |
| 4 | P11 | 3. 複合施設として目指す施設像の具体化② | 【中心部震災メモリアル拠点】の○の1つ目、2行目の表現は他のページで使っている言葉を使ったほうが共通性があって良いのでは。「防災環境都市の歩みを知り、学び、人が生きるための知恵や術の創造ができる拠点を目指します」でどうか。 | 「仙台のまちの歴史、乗り越えてきた災害や防災環境都市の歩みを知り、学びや交流を通じて、人が生きるための知恵や術の創造ができる拠点を目指します。」と記載を修正します。 |
| 5 | P12 | 言葉の使い方について | 実演芸術と舞台芸術を別の言葉として使っているが、本来これらの言葉にはあまり差はないのではないか。 | 『文化』とは分類や定義の難しい広い概念であることを踏まえ、「『舞台芸術』は広義では実演芸術全般を指す言葉であること」を記載するなど、書きぶりを修正します。 また、P40、P41の音楽リハーサル室、舞台芸術リハーサル室の説明に「主として(〜に対応したリハーサル室)」という言葉を追記し、ハード上におけるジャンルの要件が柔軟性を持つものであることを表現します。 |

| No. | 頁 | 項目 | 発言内容 | 対応 |
|-----|-----|----------------------------------|---|---|
| 6 | P12 | 言葉の使い方について | この施設では今ジャンルとして区分されていない、予想もできていない物が生まれてくることも想定される。言葉を難しく定義せず、「一定の想定はするが、必要に応じて様々なものができる施設」という打ち出し方がいいのではないか。 | 同上 |
| 7 | P12 | 言葉の使い方について | オペラは舞台芸術リハーサル室を使うと想定されるが、「音楽」の要素もある。「舞台芸術に音楽を含まない」と明確に定義してしまうと、かえって分かりにくくなるのではないか。 | 同上 |
| 8 | P24 | 音楽ホールの組織 (2) 専門人材の登用について | 「舞台監督」という職名は、ここで書かれている内容とは意味合いが異なるのではないか。 | 「舞台監督」という表現は「テクニカルディレクター（技術監督）」に置き換えます。 |
| 9 | P24 | 音楽ホールの組織 (2) 専門人材の登用について | 上記の記述で言わんとしているのは「テクニカルディレクター・技術監督」のことではないか。安全管理のうえでもこうした人材は重要であり、記載を補強すべきと思う。 | 「舞台監督」という表現は「テクニカルディレクター（技術監督）」に置き換え、「舞台技術の運用」のあとに「安全管理」も明記します。また、「舞台技術」という言葉の注釈（＝「舞台機構、舞台照明、舞台音響など、ホール内の設備や機器を取り扱う分野のこと」）も追記します。 |
| 10 | P25 | 音楽ホールの組織 (3) 運営組織概要想定 | 「企画制作」は「企画・制作」と分けた方がいい。「制作」の中にコーディネートや調整や進行管理、プロモーションなどが入ってくる考え方が一般的では。 | 「企画・制作（コーディネート・調整・進行管理・プロモーション）」という書き方に修正します。 |
| 11 | P28 | 中心部震災メモリアル拠点の事業 (2) 事業の概要と取組例 | 「アーカイブ」という言葉の注釈について、「保存価値の高い資料をデジタル化し、収集・保存するための仕組み」と書かれているが、アーカイブという言葉は本来は記録・保存一般を指す言葉で、その中でデジタルを収集・保存することはデジタルアーカイブと呼ぶのが一般的である。 | アーカイブという用語は一般に知られていることから注釈を廃止し、文中のアーカイブを「アーカイブシステム」に修正します。また、アーキビストの注釈を「アーキビスト…記録・保存情報（アーカイブ）の査定、収集、整理、保存、管理を行う専門職。」と変更します。 |

| No. | 頁 | 項目 | 発言内容 | 対応 |
|-----|-----|--|--|---|
| 12 | P30 | 中心部震災メモリアル拠点の事業 【4つの事業の関連性】 | 図の大きさは一回り小ぶりにした方が良いのでは。また、前出の「認知」「創造」「発信」「実装」の説明で使ったのと共通の言葉を出す方が、学習効果もあっていいのでは。表中の黒字の「災害文化を日常生活に取り入れる」、「3.11 を心に刻む」の間に、「災害時に実践する」といったことを入れると良いのでは。日常生活に取り入れるからこそ、いつ来てもおかしくない災害のときに実践できているということになるかと思う。 | 図のサイズダウンを行うとともに、前出の文言を再掲し、統一感を持たせました。また、実装に関する説明については、ご提案のとおり「災害時に実践する」を加えるとともに、認知・創造についても、前出の説明で用いた言葉を加えております。 |
| 13 | P33 | 中心部震災メモリアル拠点の組織 (2) 運営組織概要想定 | 「認知」のところに「研究協力」と記載しているが、研究を支援するという点も大事なので、「研究協力・支援」としてもらいたい。また、「創造・実装」のところに「災害文化普及啓発に関する企画」について、研究をして研究成果を普及したり啓発したりというような、「研究」という言葉を入れても良いのでは。 | 「認知」分野の「研究協力」は、災害を知り、学ぶことのできる展示等を企画制作する上で、主に専門機関との連携を想定しています。ご指摘のとおり市民が行う研究活動への支援は重要であることから、その役割を明確にするため「創造・実装」分野に「市民活動・研究支援」と記載します。 |
| 14 | P34 | 施設の考え方 (1) 基本的考え方③ | 大規模学会等が実施されていても、リハーサル室や練習室は市民が使えるようにして欲しい。検討の余地があるのだとしたら、現段階ではリハーサル室など具体の諸室名は記載せず、曖昧な書き方にして欲しい。 | 大規模学会については、市として、一定の配慮が必要と考えております。また、この項目は大規模学会だけでなく、仙台国際音楽コンクールや文化芸術の大会・フェスティバルにおける施設全体の利用について記載している箇所であり、現行のままいたします。なお、大規模な催事を開催する際の施設の運用面については今後詳細を検討いたします。 |
| 15 | P50 | 施設の支出と収入の考え方 (1) 音楽ホールの支出と収入の考え方 | 市民の方々に「私の施設」だという感覚を持っていただくことが重要。収支の考え方のところをもっと踏み込んで、それぞれのお気持ちに沿って、様々な形で支えてもらうという要素を入れたらいいのではないかな。 | 「施設への理解や愛着を持つ人を増やし、かつ、そうした方々がそれぞれの考えに沿った形で施設を支援できるよう、多様な仕組みを作っていくことも重要」との文章を追記します。 |
| 16 | P51 | 施設の支出と収入の考え方 (2) 中心部震災メモリアル拠点の支出と収入の考え方 | 「セールス活動」という言葉は、災害や被災地関連での活動とはあまりなじまない。周知活動とか広報活動をして収入増を得ることかと思うので、表現は変えた方が良いのでは。 | 「積極的な広報活動や本拠点における多様な主体との交流・連携を通じ、寄付金等外部資金の獲得につながる取組みを検討していきます。」と記載を修正します。 |

| No. | 頁 | 項目 | 発言内容 | 対応 |
|-----|------------|--------------------------------------|--|---|
| 17 | 概要版 P6 | 周辺との関係 ○周辺施設との連携や回遊性向上について | 「若い世代が気軽に訪れる施設となるよう取り組みます」は、「エリアの魅力を高め」など、本編に記載したことをもう少し書き足さないと通じにくいのではないかと。 | 最終案の概要版では、本編をより詳しく要約します。 |
| 18 | P52- 53 | 周辺との関係について | (1) 景観への配慮 (2) 国際センター駅との関係 (3) 周辺施設との連携や回遊性 (4) 公園や河川敷 という順番だが、(3)は重要な点なので(2)より前に来るべきでは。また、地下鉄駅に関しては、単に利便性を強調するのではなく、街中との連携の近さや、青葉山という自然と一体化した地域の核となるというような要素を取り入れた記載とするのが良いのではないかと。 | (2)と(3)の掲載順序を入れ替え、(3)には、青葉山エリアにおける国際センター駅の重要性や、本施設と地下鉄沿線施設との連携に関する記述を追記します。 |
| 19 | P52- 53 | 周辺との関係について (3) 周辺施設との連携や回遊性向上について | スタンプラリーや施設間周遊パスのくだりであるとか、あるいはその先の記述で冗長なところは整理しても良いのではないかと。 | 複合施設の整備による青葉山エリアの活性化を期待する方が多くいることから、この項目については、現行のとおり具体的な取組例も入れたままとします。 |
| 20 | P52 | 周辺との関係について (2) 国際センター駅との関係 | 沿岸部施設との関係の記載については、地下鉄東西線でつながっていることに着目し、この「国際センター駅との関係」の項目で積極的な位置づけをするという方法もあるのではないかと。 | 「国際センター駅との関係」の項目で、地下鉄を沿岸部震災メモリアル施設や各種文化施設・公共施設と本施設をつなぐ存在と捉え、これを生かした施設間連携を推進していく旨を記載します。 |
| 21 | P53 | 周辺との関係について (3) 周辺施設との連携や回遊性向上について | 最後の○で沿岸部施設との連携について触れているが、「周辺施設」のくくりに入れるのが適切なのか。 | 沿岸部施設については「国際センター駅との関係」のところで言及することとし、この項目からは外します。 |
| 22 | P56 | 整備に向けた今後の進め方 (2) 開館に向けた先行的な取組み | 7番目の○、この施設は東日本大震災だけではなく、過去の災害文化の蓄積を踏まえるものであることが極めて大事である。そうであるならば、震災のアーカイブ事業や各地の伝承施設との連携だけでは不足する。例えば仙台市博物館や歴史民俗資料館など歴史を扱う施設との連携が大事である。それらを含め各地の様々な施設が対象となる。「等」を加えとかして、連携する先がより広がりのあるものとなるように、表現して欲しい。 | 「…各地の災害伝承施設や博物館等との連携を進めていきます。」と修正します。 |